

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今年度も、本校の教育活動をご理解いただきたく、定期的に発行します。よろしくお願ひします。今回は、次の4つを掲載いたしました。

- ①ようこそ、ふれあいの丘支援学校へ!!
- ②大事にしていること／ことば
「一人一人」「共生の理念」／「一隅を照らす」「やってみなはれ」
- ③先生方へのお願い
- ④今年度、特に力を入れたいこと
- ⑤今年度、新たに取り組むこと 『新たな学校間交流』『同窓会』など
- ⑥その他

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようお願い申し上げます。

校長 上松 武



令和6年4月1日



チームふれあい 25人の先生方へ
「なかよく たのしく たくましく」生きる
子どもの育成を目指して①-0401 職員会議資料-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～

上松 武

1 ようこそ、ふれあいの丘支援学校へ!!

今年度9名の先生方が転入され、26名の職員でスタートしました。よろしくお願ひいたします。

伊藤武志教頭先生（妙高市立総合支援学校）	高橋里江子先生（県立小出特別支援学校）
青山優美先生（小千谷市立総合支援学校）	菊地益男先生（県立小出特別支援学校）
國元麻未先生（上越市立八千浦小学校）	松本清子先生（湯沢町立湯沢小学校）
五十川寿子先生（千手小学校・学校看護師）	樋口紀子先生（非常勤講師）
中島トシ子先生（水沢小学校・学校看護師・兼務）	

※育児休業を終えて、吉樂佐知子先生、佐藤修哉先生が4月から勤務します。

2 大事にしていること／ことば

○大事にしていること

「一人一人」：先生方一人一人、子どもたち一人一人。

一人一人の考えや思いを大事にする。

「共生の理念」：本校の教育の根幹。

先生方一人一人が共生の理念の具体的な姿をつくり出す。

○大事にしている言葉

「一隅を照らす」

この言葉は天台宗を開いた最澄の言葉です。

「径寸十枚これ国宝に非ず、一隅を照らすこれ則ち国宝なり」

径寸とは金銀財宝のことです。この言葉は「一番大切な国の宝はお金ではなく、自分

自身が与えられた場で努力し、その場を照らす人たちだ」という意味です。一人一人が自分の持ち場で全力を尽くせば、学校全体が明るくなります。私も、私の持ち場を一生懸命に照らしますし、皆さんの持ち場が明るく照らされるよう努力を惜しみません。

「やってみなはれ」

この言葉は、サントリー創業者の鳥井信治郎が残した名言です。

ともかく実行をまず第一に考えて、これから、その中でいろいろと学びながら、第二段階のアクションを考えていったらいいんじゃないかということです。「失敗してもいいんじゃないですか、それは皆さんの責任ではない、いいと思ってやってみた皆さんに責任はない、責任は私がかかります」とも鳥井社長は言っています。

皆さんも、子どもたちの今や将来のためにいいと思ったことはドンドンやってみましょう。責任は、私がかかります。

3 先生方へのお願い

(1) 「教員になったきっかけは？」 「教員として働こうと思ったのはなぜ？」

- ・子どもに向き合う前に、自分に向き合うこと。そして、この2つの問いにはっきりとした答えをもって、子どもたちの前に立ってほしい。

(2) 「みんな、ふれあい1年目という意識でスタートしよう」

- ・決して、「昨年まではこうだったからこうする」ではなく、転入された先生方の考えややり方も取り上げて、「それ、やってみよう」とか「それ、聴かせて。いっしょに考えよう」などとコミュニケーションをとろう。
- ・人の話をよくきくこと、これを1年間やり通そう。

(3) 「真の意味での働き方改革を進めよう」

- ・人生100年時代、教員という仕事を充実させるためには、教員の仕事以外の充実が必要だと思う。そのための働き方改革である。業務改善や段取りよくとか、時間対効果は手段である。
- ・また、様々な勤務形態があることも、人生100年時代を豊かに送るための手段。部分休業あり、育児短時間勤務あり、もちろん年次有給休暇や介護休暇、家族看護休暇も同様である。
- ・他人の勤務の仕方や休みの取り方などに絡んで、陰でコソコソと感情的になって話をするのは慎むこと。仕事に支障が出る場合などは、コミュニケーションをとり、対話で解決を図ってほしい。そうしないと、お互いに働きにくくなるし、そもそもいい教育やいい授業はできない。
- ・お互いの働き方や教員になった気持ちを尊重しよう。

(4) 「たくさん失敗し、失敗から学ぼう」

- ・やらずにいることより、やってみて失敗した方がいい。この学校にはフォローしてくれる仲間がたくさんいる。
- ・失敗していいから、がむしゃらに何事にも取り組んでほしい。がむしゃらに子どもとかかわってほしい。「よくわからないから」と言って尻込みすることはしないで

ほしい。失敗して早く自己開示した方が楽しく仕事ができると私は考える。

○「本校にいる時にしかできないことにチャレンジしてほしい」（昨年度掲載）

- ・本校は、三施設併設の特別支援学校である。
- ・自分自身のビジョンをもって、学校運営に参画してほしい。
「十日町小と併設している特別支援学校として何が大切か」
「私はここで勤務する間、何ができるのか」

○「小学部と中学部の交流活動を、意図的・積極的に実施し充実してほしい」（昨年度掲載）

- ・なぜ、小学部と中学部の交流活動が必要なのか。
「年長者が、年下のよきお手本となれる貴重な学びの場であるから」
「年長者は、楽しい学校にすることを考える貴重な学びの場になるから」
「誰もが、誰かのために、何かをする経験ができる貴重な学びの場であるから」
- ・小学部と中学部の交流活動が、どうしたら充実したものになるのか考えて、実施してほしい。

4 今年度、特に力を入れたいこと（令和5年度校長たより vol. 22、学校たより vol. 10 を参照）

- 教室で学び、家庭や地域で学んだことを生かそう。そうすることで、周りの人を笑顔にしよう、幸せにしよう。
- 十日町小学校以外の学校と交流及び共同学習を進めよう。そうすることで、「共生の理念」を少しずつ広げていこう。

5 今年度新たにに取り組むこと

（1）新たな学校間交流の実施 ※特に力を入れていることの2つめ

□基本的な考え方



A小

新たな試み

← 学校間での
交流及び共同学習の実施 →



ふれあいの丘



□ 意義や目的

- ・ 経験を深めます。
- ・ 社会性を養います。
- ・ 豊かな人間性を育みます。
- ・ 互いを尊重し合う大切さを学びます。
- ・ 障害のある人に自然と言葉をかけたり、手助けしたりします。

□ 相手校数や回数

- ・ 学校数：年1～2校程度（毎年実施していきたい）
- ・ 交流回数：年に1～2回程度



共生の理念：誰もが互いの人格と個性を尊重し、支え合う共生社会の実現を目指し、障がいのある者も障がいのない者も一つの学舎の中で、相互に学び合い、認め合い、高め合う、教育の機会と場を十分に保障にしていこう。

（2）同窓会の発足並びに総会の実施 ※8月2日（金）午後3時30分開始予定

（3）学校評価を年2回実施 ※7月と12月に実施。保護者の皆様、お願いします。

（4）保護者や地域の方々と「ふれあいの教育を語る会（仮称）」の実施

→教室で学び、家庭や地域で生かした際に、保護者や地域の方々から評価していた

だく予定。この評価をもとに頑張っていることや改善点について語り合う機会を設定したい。そして、私たちの授業改善に結びつけていきたい。

6 その他

(1) 学校活動支援ボランティアの募集

- ・ 4月2日（火）に学校支援地域コーディネーターの尾身辰二様と関口薫様が来校されて、今年度の学校支援活動について、本校職員に説明されました。その中で、保護者の皆様から、学校支援ボランティアとなっていただきたい旨のお話がありました。
- ・ 本校としても、教育活動を支えていただくとともに、子どもたちの学ぶ姿を直接見ていただき、ご意見などお聞かせ願いたいとも思っております。積極的なご参加をお願いします。

4月19日（金）募集案内を配付→ 4月25日（木）一次締め切り予定

- ・ 表の「支援内容」を、学校支援ボランティアの方にお問い合わせすることになります。

	支援内容	学年・教科	令和4年度実績			令和5年度実績		
			実施回数	ボラ人数	延べ人数	実施回数	ボラ人数	延べ人数
1	持久走の見守り	全校	8	7	16	8	11	21
2	着付け体験	中	1	7	7	1	7	7
3	邦楽に親しむ会	全校	1	2	2	1	2	2
4	水泳授業の監視	全校	11	8	12	10	9	10
5	木工体験教室	全校	1	3	3	1	6	6
6	花壇の水やり	環境整備	38	12	38	42	12	42
7	家庭生活調理実習	中	4	7	12	5	6	10
8	家庭生活裁縫実習	中	13	6	20	12	6	19
9	教材園の耕作	環境整備	1	1	1			
10	音楽（深雪甚句）	中	2	4	8			
11	地域生活学習	中	3	4	6	3	6	6
合計			83	61	125	83	65	123

(2) 学校たよりの標題について

- ・ 今年度の学校たよりの標題等を下のようになります。題字は、小学部卒業生5名と中学部卒業生9名から書いてもらいます。
- ・ 昨年度から、市内の事業所様に学校たよりを置かせていただいております。事業所様によっては、お会計の近くに置かせてくださったり、お客様が見る雑誌と一緒に置かせてくださったりと、工夫していただいております。

(3) わいわい会議の実施

- ・ 昨年度の夏季休業中に、全職員で本校の教育活動を見直す会議を実施しました。そこでの提案や意見をもとに、今年度の教育活動が計画されています。
- ・ 今年度も実施予定です。本校での教育活動に、自分事として参画していきましょう。

「学校たより」の標題



(題字 ○学部 ○○○○)

ゆめをのせて

十日町市立ふれあいの丘支援学校

令和6年○月○日発行 vol.○

令和5年度「いじめ見逃しゼロ標語・ポスター」金賞受賞小学部共同作品

「学校たより」常設事業所等一覧

	事業所等		事業所等
1	十日町福祉会 なごみの家	12	カーショップミナミ
2	越後妻有文ホール 段十ろう	13	レストランオガワヤ
3	市民交流センター 分じろう	14	樋口金物店
4	市民活動センター 十じろう	15	NPO法人支援センターあんしん
5	フォトショップ ポア	16	千手コミュニティセンター
6	十日町福祉会 わっかふえ	17	松代・松之山温泉観光協会
7	タキザワ印刷	18	ミオンなかさと
8	ガトータカダヤ	19	ミヤコヤ
9	花幸	20	高木医院
10	いこて	21	須坂市立須坂支援学校
11	十日町郵便局		
令和6年4月1日現在			

(4) 昨年度の出来事

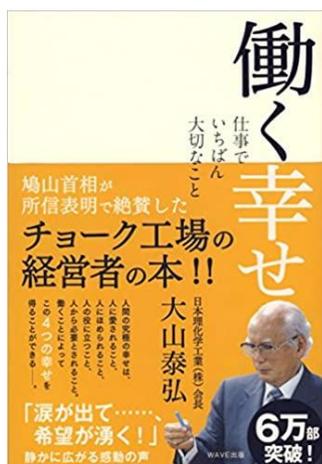
①児童生徒

- ㊦人権の花がプランターから引き抜かれた
- ㊦「デブ」と言ったり紙に書いたりした
- ㊦ズボン下ろしがあった
- ㊦前日に入れたばかりの手洗い石鹸ボトルの中身が、翌日には捨てられていた
- ㊦近所の呼び鈴を、用事もないのに何度も鳴らした

②職員

- ㊦スペアキーの紛失
- ㊦交通加害事故（物損）
- ㊦連絡帳の誤配付（中身を見る前に保護者が気付いて学校へ連絡）
- ㊦行事等でいただいたお菓子里にアレルギー成分が入っていたことを見落とし配付。
食べてしまいアレルギー症状を発症

(5) 書籍の紹介



「働く幸せ」 大山泰弘 WAVE 出版

鳩山首相所信表明演説で触れた「チョコク工場」の感動の逸話、「人間の究極の四つの幸せ」はこの本で語られています！ベストセラー『日本でいちばん大切にしたい会社』で感動を呼んだチョコクの会社の物語！知的障害者が社員の7割。そして、地域に支えられながら50年間持続経営。「利益第一主義」ではないからこそ、企業は永続的に発展できる――。

そのことを体現する著者の軌跡が一冊に！

「私たちは、なぜ働くのか？」その答えがここにあります。

「導師は人間の究極の幸せは、人に愛されること、人にほめられること、人の役にたつこと、人から必要とされること、に4つと言われました。働くこと

によって愛以外の3つの幸せは得れるのだ。私はその愛までも得られると思う。」(大山泰弘)

「人は働くことによって幸せになれる。ならば、会社は幸せをもたらす場所なんです」「利益第一主義」の世の中で忘れられていた、会社本来の存在意義が見えてきます。そして、「働く」ことをもっと大事にすることで、私たちは生き生きとした社会を取り戻すことができるはず――。

知的障害者とともに50年以上歩み続けてきた著者だからこそ書ける「これからの社会像」。

Amazon ホームページから引用